

◇平成 26(2014)年6月16日 定例会質疑

No.42 灰垣和美議員

この4月1日時点で待機児童がゼロになったと。特定保育所入所希望者120人はいますけれども、国基準でゼロになったということに率直に敬意を表したい、評価をしたいと思っております。これは、長年我々も訴えてきたことですからけれども、濱田市長が、子育て、教育を最重要課題ということ、その思いを職員の皆さんがしっかり受けとめて、第2次保育計画に基づいてこのゼロを達成したと、そういう背景があるんじゃないかというふうに思っております。

今、お2人の方がいろいろお話をされましたけれども、12月開設ということであれば、当然、4月の時点で例えば昨年は55人の待機児童、10月の時点で122人というお話もありました。10月の時点では必ず待機児童が出てしまうというのは、否めない事実であらうと思います。そういった意味では、今さら言うことではないんですが、この4月の時点にこれが開設していればなあというふうに思うところです。

それともう1つは、やはり保育の質というのが問われてくると思います。非常に複雑な保育内容になろうかというふうに想像するところです。リスクの高い、そういった保育の内容になるんじゃないかということを考えたときには、やはり人というのが非常に重要になってくるであらうと思います。7歳までにその後の人生よりも多く大事なことを学ぶというふうに言った歴史学者がいらっしゃいましたけれども、そういった意味でも、幼児教育というのは非常に重要な、人の一生を決めるといっても過言でないような、そういった幼児期だと思しますので、その点に関してしっかりと取り組んでいただきたいということをお願いしておきます。

1つだけご質問させていただきますけれども、臨時保育室というちょっと味気のない名前になっておりますので、愛称というか、そういったものをつける必要があるんじゃないかというふうに私は思いますが、いかがでしょうか。

No.43 子ども未来部長（津田良恵）

ただいま議員からご提案いただきました臨時保育室の愛称につきましては、今後検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

No.44 灰垣和美議員

「カンガルーの森」にしてもクロスパルにしても、やはりそういった愛称で親しまれるということ考えたときには、公募をして、こういったすばらしい施設ができるんだということもアピールできると思いますので、どうかその点よろしく願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

以上です。